

子ども育成プロジェクト

未来をになう 子どもたちのために

美 郷町総合計画「後期基本計画」では、将来の美郷町のために特に力を入れる施策を、まちづくり戦略プロジェクトと位置づけています。その一つである「子ども育成プロジェクト」は、すべての子どもたちが将来に夢を持ち、その夢に向かって生き生きと成長できるように豊かな感性を育てることを目指しています。

現在、美郷町では子どもたちのためにどのような取り組みが行われているのかをご紹介します。

子ども育成プロジェクト

「子ども育成プロジェクト」には次の3つの項目があります。どの項目も子どもたちの健全な成長のために大切であると捉えています。

「確かな学力を身につけた子どもの育成」
基礎学力の定着度調査や知的発達検査などを行い、確かな学力を身につけた子どもたちをばぐみします。

「個性と創造力をもつ子どもの育成」
本物の芸術文化に触れる機会の提供や、実験・体験型の授業や最新の科学技術についての学習を行うなど、豊かな感性と好奇心旺盛な子どもたちをばぐみします。

「子どもの心と体の健全な育成」
健全な食生活や食習慣を身につける食育教育の実践やスポーツ少年団への活動支援を通じて、健康で元気あふれる子どもたちをばぐみします。

また、不安定で悩みを抱える思春期の子どもたちが責任ある自己決定と自己確立ができるようばぐみします。



子ども育成プロジェクト

仙南東小学校読書活動

本の世界を旅して得るもの

こ のたび仙南東小学校が文部科学省から「子どもの読書活動優秀実践校」として表彰を受けました。よりよい読書環境を作り出すための多彩な取り組みが高く評価されて今回の受賞につながりました。全校を挙げてどのような活動を行っているのかをご紹介します。

仙南東小学校では毎日午後1時20分から「昼の読書タイム」として全校児童が15分間の読書を行っています。図書館教育担当の沢屋恵理子先生は「読書が好きで自分から本を手取る児童もいますが、どちらかと言えば多くの子どもたちはゲームやテレビに興味を向いてしまうのではないだろうか。出来る限り読書に向かう環境を整えてあげることが私たちの仕事だと思っています。毎日の「読書タイム」も、そのための時間を用意することでたっぷり集中して本の世界に浸っています。

こういう取り組みは長く続けてあげたいと思います」と話します。高橋栄子校長も「子どもたちが本に触れる機会を持つことだけでも大切だと感じています。本からは携帯電話などでは味わえないものが得られるはず。大人になり、ネット社会に飛び込んで行かざるを得ない子どもたちには本の良さを知ってもらいたい」と言い、「読書タイム」には自分も読みたい本を片手に教室を回り、子どもたちと一緒に読書を楽しんでいるそうです。

また、児童による図書委員会活動も活発です。5年生と6年生の委員が中心になり、委員会のテーマ「みんな大好き 図書室」を目指して本の貸し出しや新刊図書の紹介、図書館だよりの発行、「読書祭り」集会の計画・実施などを行っています。そのほかにも学年課題図書を選定や地域ボランティアによる週1回の読み聞かせ、美郷町学友館との連携など、よりよい読書環境のために様々な角度から取り組んでいます。今後も、語り部の先生をお招きして「昔がたり」を聞いたり、ボランティアの手を借りて図書室の利用促進を進めたりと、特色ある活動を計画しているとのこと。

「読書は心の栄養だと思っています。自分の目に映る世界には限りがあっても、本を通して色んなことを学び、色んなことを知り、色んなことを吸収してもらいたいと思っています」と話す沢屋先生。昼下がりの静かな教室で本のページをめくりながら、心の栄養をどんどん取り込む子どもたちの真剣な眼差しが印象的です。



■今回授与された賞状を囲んで。高橋栄子校長(写真左)と図書館教育担当の沢屋恵理子先生(写真右)

ひとみキラキラ ボランティアによる読み聞かせ

仙南東小学校では「読書タイム」を利用して、毎週水曜日に図書館ボランティア「紙ひこうき」による読み聞かせを行っています。校内で読み聞かせが行われるようになったのは平成18年度から。沢屋先生は「自分では手を伸ばさない分野の本にも読み聞かせを通して触れることができる。『こういう本もあるんだ』『面白いなあ』と思えば世界も広がり、もっともっと本が好きになるのではないだろうか」と、読書とはひと味違う魅力を感じています。

この日は「紙ひこうき」の高橋美由紀さんと本間和歌子さん、谷藤友子さんが学校を訪れ、1年生と2年生の教室で読み聞かせを行いました。読み聞かせが終わると子どもたちはボランティアの方々に駆け寄り、読み聞かせに使った本をもう一度見せてもらったり、自分で読んだ本の感想を伝えたりしていました。

